

=私たちの活動 4つの柱=
*制度化と指導員の身分保障
*専門性と仕事の確立
*父母と共に学童保育運動の発展
*全国の指導員との団結と連帯

建交労全国学童保育部会

ニュース学童保育

2019. 9. 9.

NO. 41

全日本建設交運一般労働組合
全国学童保育部会 発行
編集：事務局



畳スペースで、宿題をしたり、読書を楽しんでいます。

福島市に
対しては、
「国の補助
事業を活用
して、小学
校施設を学
童専用施設
へと改築し
てほしい」
と強く求め
ました。
学校が
「貸す」と

市の設計図では、ほぼ
水回りで予算を使い切る
計画でした。そこで、き
りん教室の現役とOBの

より良い環境

市は当初、「放課後こ
ども環境整備事業」の千
二百万円しか、補助事業
はできないという立場
(県も同様)でしたが、
提案を受けて、実際には、
二八〇〇万円余りの予算
を確保して、トイレと台
所を設置しました。

「スマイル」と「ドリー
ム」という名前も、子ど
もたちや保護者から応募
してもらい、候補を決め、
みんなで投票して、決定

(福島支部
佐藤秀樹)

新たな子どもたちの居
場所の確保ができたとい
う到達を踏まえて、引き
続き施設環境整備・保育
内容の充実に頑張ってい
きたいと思います。

福島市の渡利学童保育
きりん教室は、民設民営
の学童保育として福島市
内で三番目に古い一九七
九年に創設されました。
この四月に渡利小学校
内の余裕教室三つと一つ
の準備室をきりん教室の
専用スペースとして借用
し、児童数の増加もあり、
渡利学童保育きりん教室
「スマイル」と「ドリー
ム」に分割して、スター

補助金活用を、 市に提案

どのような施設が子ど
もたちに必要かという議
論を保護者と指導員は続
けました。

トしました。
移転に向けて一番大き
な力となったのが、保護
者と指導員が移転の必要
性をよく話し合い、行政
に働きかけてきたことで
す。

いった場所には、トイレ
など水回りの施設がなく
新たに作る必要があった
ため、それなりの経費が
必要になります。
保護者と指導員は、
「子ども・子育て支援整
備交付金」の「施設整備
費」の活用で、「二五〇
〇万円以上の事業費を確
保できる」と福島市に提
案しました。

保護者全員
に「移転・
分割の協力
金」の願い
も出すこ
とにしまし
た。
約三〇〇万
円の目標を
立てて、目
標に近い協
力金が寄せられました。



毎年福島に来てくれている、兵庫の民族歌舞団
「花駒」による獅子舞。子どもたちも楽しみにしてい
ます。

あらたな生活の場で 福島、きりん教室